

2023年度（第107回）日本アマチュアゴルフ選手権競技

第1ラウンドを終えて（6月27日火）

ツキサップゴルフクラブ

古瀬 幸一郎（満濃ヒルズCC） 71s 15位タイ

日本アマチュアゴルフ選手権に出場した古瀬幸一郎(満濃ヒルズCC)は、第1ラウンドを3バーディ、2ボギーの1アンダーパー71で回り、首位と4打差の15位タイにつけた。

このラウンドに古瀬は、「内容としてもそこまで悪くなかったし難しいコースコンディションの中、シビアなパーパットなども決めきれました。気持ちよくゴルフができたというわけではないですが、アンダーパーで回れて良かったと思います。アプローチが寄らずに長いパーパットもあったんですけど、それも入ってくれた。段上からのバーディーパットが入ったりもして、運も良かったですね。」と笑顔を見せていた。



1アンダーパーで回ったものの、実は北海道特有の洋芝を苦手と古瀬は言う。それでも今日はティショットをフェアウェイに確実に置き、セカンドショットを狙えるところから打つことが大事と考えていた。それがこの日は狙ったところに飛んで、ストレスなくゴルフができたと思います。」2日目もパーを確実に拾うゴルフでさらなる順位アップを狙う。

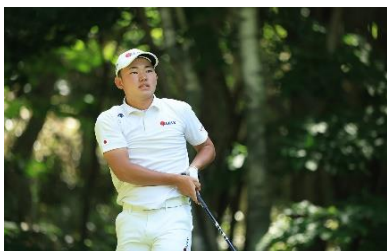
福住 修（スカイベイGC） 74s 53位タイ

福住修（スカイ・ベイGC）は、4バーディ、6ボギーの2オーバーパー74の53位タイと出遅れた。「ショットが荒れてて、曲がったところがボギーになってしまったりしたので、苦しいゴルフでした。自分はフェードヒッターなんですけど、フェードには不利なホールがこのコースには多くて、そこは苦戦するところなのかなと思います。」



苦戦を強いられたラウンドだったが、気持ちは明日に向いている。

「明後日の決勝ラウンドに進めれば、2日間心おきなくラウンドできるので一生懸命練習して調整して、頑張りたいと思います。」初日の遅れ分を明日以降で巻き返す。



松井 琳空海（新居浜CC） 79s 127位タイ



濱淵 裕生（鳴門CC） 79s 127位タイ



亀井 壮汰（琴平CC） 82s 143位タイ

2023年度（第107回）日本アマチュアゴルフ選手権競技

第2ラウンドを終えて（6月28日水）

ツキサップゴルフクラブ

古瀬 幸一郎（満濃ヒルズCC） 143s（71・72） 22位タイ



福住 修（スカイベイGC） 145s（74・71） 40位タイ

CUT 146s

亀井 壮汰（琴平CC） 151s（82・69） 115位タイ



日本アマチュアゴルフ選手権第2ラウンド、初日82の10オーバーパーで大きく出遅れた亀井壮汰（琴平CC）が意地のラウンドを見せた。4バーディ1ボギーの69、3アンダーパーでまわり、トータル7オーバーパーで2日間のラウンドを終えた。「昨日も今日もショットはそんなに悪くなくて、でもパターが良くなって取りこぼしてしまうことが多かったです。朝イチから連続バーディもあつたり、いけるかなと思っただんですけど、やっぱりパターでつまずいて69にとどまったかなと思います。」

予選通過へ向けて、スタート時から65以上をマークすることしか見てなかったという亀井。「65までいけば予選通過もいけるかなと思っていました。やっぱりパターが入らないとスコアは伸びないんで厳しいです、パターの一言ですね。四国代表として予選通過出来なかったのは申し訳ない気持ちが強いです。」8月から関東学生など試合は続く。予選落ちの悔しさを次なる舞台で晴らしてほしい。

濱淵 裕生（鳴門CC） 147s（79・68） 63位タイ

濱淵裕生（鳴門CC）もまた、この日はスコアを伸ばすのみだった。初日7オーバーパーからの巻き返しをはかったのラウンドとなった第2ラウンドは予選通過も見えたラウンドだった。「今日はティショットがトラブルなくできました。少し1ピンくらいのバーディパットを外してしまったのももう少しイケたかなと思います。練習場でも感じが良かったので、3つ4つスコアは伸ばせるかなと思いました。17番でボギーをたたいて、最後バーディとらないと通れないなと思っていたので最後18番で決められたのが大きかったかなと思います。」最終的には1打及ばず惜しくも予選落ちとなってしまったが会心のゴルフを見せてくれた。



松井 琳空海（新居浜CC） 150s（79・71） 104位タイ



四国アマチュアゴルフ選手権チャンピオンの松井琳空海（四国学大香川西高）もまた、初日に出遅れてしまい予選通過を目指す戦いだった。2日目はスコアこそ伸ばしたものの、2日間パターに悩まされ最終日は2バーディ1ボギーの71、予選落ちに終わった。

「パターを打つ時に震えてしまって、昨日は38パット、今日は37パット、課題はパターですね。JAPANのユニフォームを着て強いところを見せたかったんですけど、それができなくて残念です。」

今後の目標は、四国ジュニア、そしてその先の日本ジュニアをあげた松井。

★惜しくも予選落ちとなった3人だが、今後の活躍に期待したい。★

写真提供：JGA

2023年度（第107回）日本アマチュアゴルフ選手権競技

第3ラウンドを終えて（6月29日木）

ツキサップゴルフクラブ

岡田 晃平（スカイベイGC） 208s（73・69・66） 7位タイ

岡田晃平が尻上がりに調子をあげ66のビッグスコアで一気に優勝争いへ



日本アマチュアゴルフ選手権も決勝ラウンドに進出した。第3ラウンドをトータル2アンダーパーからスタートしたディフェンディングチャンピオンの岡田晃平（スカイ・ベイGC）が7バーディ1ボギーの66、ビッグスコアをたたき出し、トータル8アンダーパーまでスコアを押し上げ、順位も7位タイまで急浮上した。

予選ラウンドでは「コースへの相性が悪いのかな。」と話していた岡田だが、ラウンドを重ねるうちに慣れてきた。

「ここ最近思い切ったゴルフが出来ていなくて、歯がゆいところはあったんですけど、スコアとしては良かったですね、今日の内容としては0点に近いんですが、その中でもアンダーが出ているというのは成長しているのかな。」

このスコアで0点とは？と疑問にも思うが、岡田本人としては自分のフィーリングとかみ合わないことが大きく、洋芝に悩まされていることがそう感じている最大の要因のようだ。「今日もいいショットは一つもなかったですし、結果としては悪くないですが感触が悪いので気持ち悪いですね。たまたま真っすぐ飛んでくれたというか。」とはいえ、初日から“73”、“69”、“66”と尻上がりにスコアを伸ばしてきており、最終日も楽しみが大きい。優勝へのポイントは技術的なところよりも精神的な部分の方が鍵を握る。今年プロ転向を考えている岡田は今年が最後の日本アマになるかもしれない。6回目の日本アマ出場だが、初めて出場した日本アマも北海道（2016・北海道ブルックスCC）、今年も北海道での開催ということで縁を感じているようだ。

「明日も思い切ったプレーが出来ないというのはわかっているので、気持ちで負けないことが大事かなと思います。今日もミスしながらも気持ちは折れなかったので、そういうメンタルというか気持ちを強く持って明日も頑張りたいと思います。」ディフェンディングチャンピオンとして臨む今年は、昨年とは若干気持ちの面でも違っている。「去年、年上の先輩がいる中で勝ったので、今年は最上級生になり負けたくないというのはありますね。学生のリーダー的な立場なので負けたくはないです。高校生や中学生も今はだいぶ上手くなっていますけど。」金庚泰（2005・2006）以来の日本アマ連覇へ、最終日アマチュアゴルフの集大成のラウンドとしたい。

古瀬 幸一郎（満濃ヒルズCC） 213s（71・72・70） 15位タイ

古瀬幸一郎（満濃ヒルズCC）は、3バーディ1ボギーの70、トータル3アンダーパーで第3ラウンドを終えた。「チャンスが多かったんですけど、かなりパッティングを外してしまいました。最後微妙な5メートルくらいのバーディパットが入ってくれて良かったんですけど、良かったのはそれくらいです。取りこぼしがありましたし、もったいないミスが多かったですね。」アンダーパーでのラウンドながら満足はしていない。それでも大怪我はしなかったとポジティブに話す。



「コースの雰囲気慣れてきたので、明日1日しかないのでもやれることをやって出来る限り上位に食い込めるように頑張りたいと思います。」

福住 修（スカイベイGC） 216s（74・71・71） 31位タイ



福住修（スカイ・ベイGC）は、1イーグル5バーディ2ダブルボギーの71、出入りの激しいゴルフで、トータルイーブンパーで第3ラウンドを終えた。「あがり5ホールで4つもスコアを落としてしまいました。もったいないですね。ショットが散らばっているのでそこをどうするかなんですけど、毎日修正すると言っているんですけどなかなか出来ないんですね。」

前半はイーグルもあり、3アンダーパー、快調にスコアを伸ばしていただ後に後半のスコアは悔やまれる。序盤で稼いだ貯金もあつという間になくなってしまっただけにアンダーパーではあるものの苦笑いを浮かべるほどだ。「今日は本当に悔しかったので、明日はショットをしっかり修正して最後ビッグスコア出せるように頑張ります。」

写真提供：JGA

2023年度（第107回）日本アマチュアゴルフ選手権競技

第4ラウンドを終えて（6月30日金）

ツキサップゴルフクラブ

岡田 晃平（スカイベイGC） **274s（73・69・66・66）** 3位

岡田晃平が連日の66、優勝には一打及ばずも3位で最後の日本アマを終える



第4ラウンドをトータル8アンダーパーからスタートしたディフェンディングチャンピオンの岡田晃平（スカイ・ベイGC）が7バーディ1ボギー、連日の66をマークしトータル14アンダーパーまでスコアを押し上げた。ホールアウト時はクラブハウスリーダーとなったが、直後の組の鵜瀬璃久が15アンダーでホールアウトした為連覇の夢は潰えた。「昨日と一緒にミスショットばかりで、それがラッキーだったり、しのげたという感じで。今週はセカンドショットが良かったので、ミスしてもリカバリーできたかなと思います。」

「昨日と一緒にミスショットばかりで、それがラッキーだったり、しのげたという感じで。今週はセカンドショットが良かったので、ミスしてもリカバリーできたかなと思います。」

ホールアウト後の取材時には表情からも悔しさがにじみ出ていたが、2日で12アンダーパーを伸ばし1打差まで追いつけたのは、これぞディフェンディングチャンピオンの意地というのだろうか、最後まで連覇の可能性を見せてくれた岡田のプレーには拍手を送りたい。最後には悔いはないですと一言話して会場をあとにした。今後プロを目指す岡田の活躍に期待したい。

古瀬 幸一郎（満濃ヒルズCC） **282s（71・72・70・69）** 13位タイ



古瀬幸一郎は、6バーディ3ボギー、4日間でベストとなる69、トータル6アンダーパー13位タイで大会を終えた。「今日は4日間で一番ショットが冴えていて、チャンスにつく回数も多くて最近の中では久々にいいゴルフをしたなという感じでした。」これまでは北海道の洋芝に苦手意識があったが、その中で4日間オーバーパーを打たなかったことは古瀬にとって大きな収穫だろう。

「今年、試合でオーバーパーで回ったことがなかったので、今週はオーバーパーで回らないことを目標にして、それを達成することができて良かったです。まだまだパティングにしてもショット面にしても、詰めが甘いところが多いので、帰ってから次の関東学生、日本学生に向けてしっかり練習したいと思います。」

福住 修（スカイベイGC） **286s（74・71・71・70）** 27位タイ



福住修は6バーディ2ダブルボギーの70、トータル2アンダーパーの27位タイ。「昨日に引き続きダブルボギーを2つ打ってしまって。6バーディは取ったんですが、ダボは4パットとロストです。ドライバーで右に行くことが今日も3～4回あったので、それがラフに入ったり、木に当たってラフに戻ったりラッキーもあったんですけど、ティショットの精度が良くなかったですね。あとはロングパットの距離感が合わなかったときの気持ちの対処の仕方、メンタルの部分で焦って4パットしたのでそこが課題かなと思います。」今年の日本アマ4日間を終えて、バーディ量産できたことは次につながると自信にもつながったようだ。

四国を代表する選手たちの戦いは終わった。優勝こそならなかったが、それぞれが持ち味をしっかりと出して活躍してくれた。今後の彼らの戦いに期待したい。